

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | 「信州伊那谷ガレット」による伊那谷の新しい文化発信事業                       |
| 事業主体<br>(連絡先) | 信州伊那谷ガレット協議会<br>(代表 渡邊 竜朗 0265 (76) 9086)         |
| 事業区分          | ⑥ア特色ある観光地づくり<br>⑥オその他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業 |
| 事業タイプ         | ソフト   |
| 総事業費          | 2,025,652 円 (うち支援金 : 1,503,000 円)                 |

#### 事業内容

1. 「信州伊那谷ガレット食べ歩き MAP」3伊那谷のおいしい！に出会う旅作成・配布。公式 HP の作成公開。
2. 地域内外向け各種イベントへの参加、及び主催イベント「ガレット・マルシェ 2019」開催。約 1,800 名来場。約 1220 食のガレットを完売。南信州シードル協議会、信州ガレット振興会とジョイント開催を実現した。
3. 上伊那、下伊那の行政や民間地域団体などとも連携を広げガレット体験教室を実施。「南信州支部」発足の足掛かりを作った。
4. 中山間地でそば栽培を「知る」ワークショップ、「ガレット・ラボ」の開催。
5. 「ガレット・キャラバン」の実施。栽培、収穫したそばを使い、協議会加盟店キッチンなどにて、ガレット体験教室を開催した。(詳細は報告書別紙参照)



(活動写真)

【川島小学校全校ガレット体験教室】

#### 【目標・ねらい】

- ① 山岳・季節観光客の増加・周遊化
- ② 伊那谷ガレットの普及
- ③ そばガレットで伊那谷をブランド地域に
- ④ 伊那谷の食文化として固定化

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 支援金を活用し、3万部の「ガレット MAP」Ⅲを作成、要所に徹底配備したことで、山とガレット、桜とガレットなど伊那谷の強みの連結が実現し、観光動向が変化、周遊化がはじまり、集客効果が高まった。
- ② 普及度、集客効果を示す数値として、全加盟店のガレット販売数を集計。約 6 万食、6 千 7 百万円をこえる経済効果を上げた。主催イベントには約 1800 名の集客があり、1,220 食のガレットが完売、着実に実績が増加した。
- ③ そば栽培プロジェクトなどを通じ、TV、新聞、雑誌など各メディアに取り上げられ、伊那谷ガレットが露出する機会が大幅に増えた。
- ④ ガレット体験教室、地域ガレットづくり、など増加し、ガレットを学ぶだけではなく、地域特性、地形特性、栽培特性などを知る機会となり、地域課題解消の具体策を示せた。

#### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

伊那谷ガレットを目当てにする観光客が定着化し、地元住民からのガレット教室を求める声は、さらに広がりを見せ下伊那までエリアを拡大し伊那谷全域の食文化として定着し始めた。

松本、長野、上田など中信、北信にも伊那谷ガレットの知名度と商圏が着実に拡大、浸透を見せた。ついには県下最大のガレット団体となるに至った。特に南信州地区での温度は高く、信州伊那谷ガレット協議会南信州支部を発足。上伊那支部と合わせ伊那谷全域の団体となった。

### 今後の取り組み

伊那谷全容からみた強みの連結（縦軸）と、個々の地域の優位性、固有性を浮き彫りにし（横軸）、組み合わせていくこと。また、加盟飲食店のガレット（縦軸）と、地域住民の作る地域ガレット（横軸）との組み合わせ、内外から「世界一のガレット」「ガレットの聖地」伊那谷を印象付けられるよう、ポイント絞り込みながら普及PRすべき。

そのためにも、信州伊那谷ガレット協議会公式ウェブサイトなどウェブ上の情報発信基地の整備が必要になってくる。そばの官能評価軸を安定させるためのフレーバーホイール作りに協力、貢献できたことは大きな実績だが、また、100年後もブランドガレットとしての地位を継続安定させるため、さらに「伊那谷そば」を美味しく栽培する栽培技術も確立させ、そばの経済作物化を図る。その上で、そばの品質向上を果たし、「伊那谷そば」ブランドを確立する。また、プロ養成ガレット講座などを新設し、新規開店や新規メニュー化を目指す事業者をサポートし、加盟店も増強させ、さらに伊那谷が面でガレットの聖地として見えてくる真の「世界一のガレット」を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある